

ホタテガイ養殖施設に付着したヨコエビ類の棲管

吉田達

目 的

平成 25 年 2 月の冬季へい死調査時に平内地区の漁業者から情報提供のあったパールネットに付着した泥状物質（通称、ドロクサ）を調査した。

材料と方法

平成 25 年 2 月 25 日に平内町茂浦地区の漁業者から泥状物質が付着したパールネットを入手して、形状等を肉眼及び実体顕微鏡で観察した。

結果と考察

パールネットは上段から下段まで、泥状物質が大量に付着し、目詰まりしていた（図 1）。泥状物質の一部を剥離して、実体顕微鏡で観察したところ、ヨコエビ類（図 2）が多数観察された。海水を入れたシャーレに泥状物質を入れると管状を呈した（図 3）。泥状物質がハイドロゾアに付着した部分もあり、漁業者はこの部分をドロクサと呼ぶものと考えられた（図 4）。ヨコエビ類は粘着性物質で海中の粒子を接着して棲管を作る¹⁾ことから、泥状物質はヨコエビ類の棲管と考えられた。

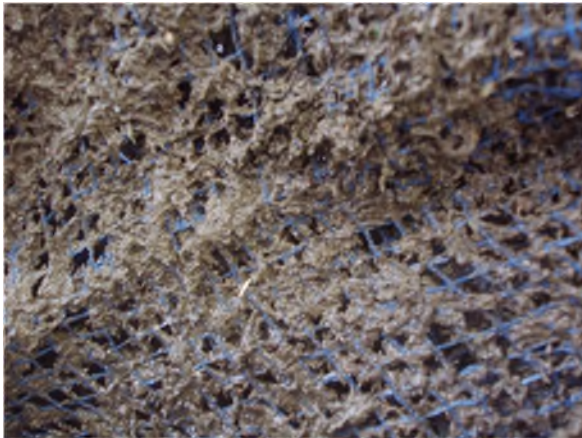


図 1. パールネットに付着した泥状物質



図 2. 泥状物質中のヨコエビ類（体長約 4mm）



図 3. 海水中の泥状物質（柵目は 5mm）



図 4. 約 20cm のハイドロゾアに付着した泥状物質

文献

- 1) 樋渡武彦（1998）. 付着生物群集としての端脚類. 付着生物研究, 14(2), 25-32.